



中海・宍道湖・大山圏域
8の字ルート研究会
中間報告（概要）

「あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域」
の実現をめざして



目次

- これまでの経過
- 研究のテーマ及び進め方について
- 圏域の現状について
- 4つの視点の整理について
- 目標とする社会像について
- 今後の広域連携の取組について
- 今後に向けて





これまでの経過

1. 中海・宍道湖・大山圏域の高規格道路ネットワーク整備を取り巻く環境の変化

(1) 整備促進に向けた機運

- ・国主導で「中海・宍道湖圏域道路整備勉強会」設置、整備方針、機能軸の方向性などが議論
- ・経済界では「8の字ネットワーク整備による効果分析検討会」開催、費用対効果を検討
- ・中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンの基本目標に「未来を創造する圏域8の字ルート等の整備促進」を掲載

(2) 高規格道路ネットワークの整備促進

- ・令和元年度に山陰自動車道安来道路において米子西 I C から安来 I C 間の 6.6 k m が 4 車線化整備決定
- ・中国横断自動車道岡山米子線において令和元年度に蒜山 I C から江府 I C 間、令和 2 年度に江府 I C から溝口 I C 間、令和 3 年度に溝口 I C から米子 I C 間の 4 車線化整備決定
- ・令和 3 年度に境港出雲道路の一部である、松江北道路が都市計画決定され事業着手



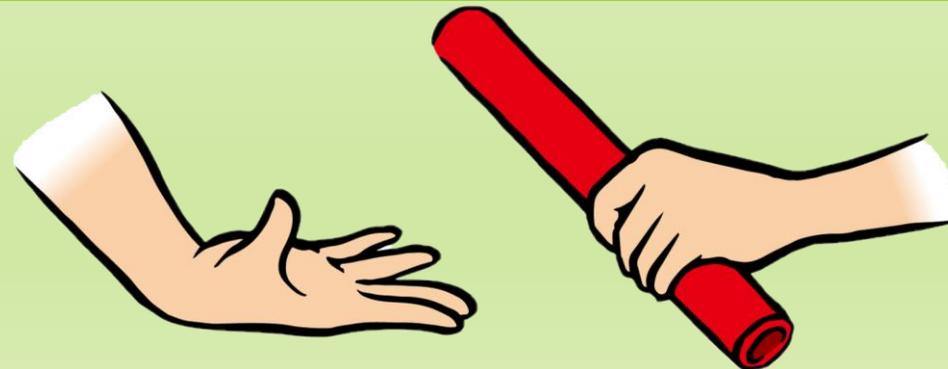


これまでの経過

2. 中海・宍道湖・大山圏域の発展に向けて

- 高規格道路ネットワークを将来にわたって最大限に活用し、地域の活力の向上につなげていくことが重要
- 人口減少時代にあって、地域間の移動・流通が自由自在できるような高規格道路ネットワークは、次の世代に残すべき必要な社会基盤

上記の共通認識のもとに、有識者や関係行政機関を構成メンバーとして、中海と宍道湖を介して8の字につながる高規格道路ネットワークをどのように圏域づくりに活用すべきかについて研究することを目的として中海・宍道湖・大山圏域8の字ルート研究会を設置





研究のテーマ及び進め方について

1. 研究テーマ

圏域8の字ルートができることを前提にした、高規格道路ネットワークをいかした圏域づくり

2. 研究方法

- 影響の分析 → 圏域8の字ルート整備によって生じる様々な影響について、4つの視点（次ページ）により整理
- 目標の設定 → 整理した影響に基づき、圏域8の字ルート整備後の目標とする社会像について検討
- 取組の検討 → 圏域の目標とする社会像を実現するために、圏域全体で取組む有効性について議論

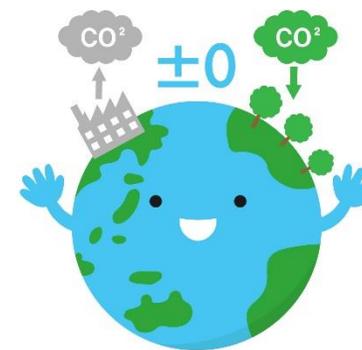




研究のテーマ及び進め方について

4つの視点

- ①移動に要する時間の短縮が、圏域の経済活動や人々の生活様式に及ぼす直接的な影響について
- ② B/Cに現れない整備効果である、交流人口の増加や災害時の安定輸送などの間接的な影響について
- ③国土としての位置づけを含めた、圏域の新たなデザインについて
- ④SDG s、DXの推進等の現状を踏まえた、カーボンニュートラル、デジタル技術の活用について





圏域の現状について

①構造と人口

- ・国道9号等が通る、中海・宍道湖南岸に人口、産業が集積
- ・限られた往来箇所交通が集中し、慢性的な交通渋滞が発生
- ・圏域の人口減少率や高齢化率の上昇は全国平均を上回る
- ・若年層の圏域外流出が多く、若者の雇用を生み出す産業の育成等が急務

③観光

- ・観光客の多くは自動車移動
- ・観光客は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少
- ・インバウンドも堅調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により激減
- ・アフターコロナを見据え広域連携の取組を進めることが重要
- ・観光地間の移動時間が長いため、圏域を十分に周遊できない

②産業

- ・卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業の事業所が多数
- ・製造業は事業所の割合は比較的少ないものの、付加価値額の割合は高い
- ・宍道湖北側の国道431号沿線の工業団地は大半が現在も分譲中
- ・境港は最寄りICまでの距離が長く、アクセス性に課題

④安全・安心

- ・島根半島には島根原発が立地
- ・島根県広域避難計画、鳥取県広域住民避難計画が策定され避難経路を設定
- ・近年は線状降水帯のゲリラ豪雨による土砂崩れ、道路通行止めが発生
- ・昼夜間問わず比較的多くの自動車が一般道を使用
- ・どのような災害であっても、円滑な移動を確保するインフラ整備が必要
- ・市街地の慢性的な渋滞が発生し救急搬送の定時性の確保が課題

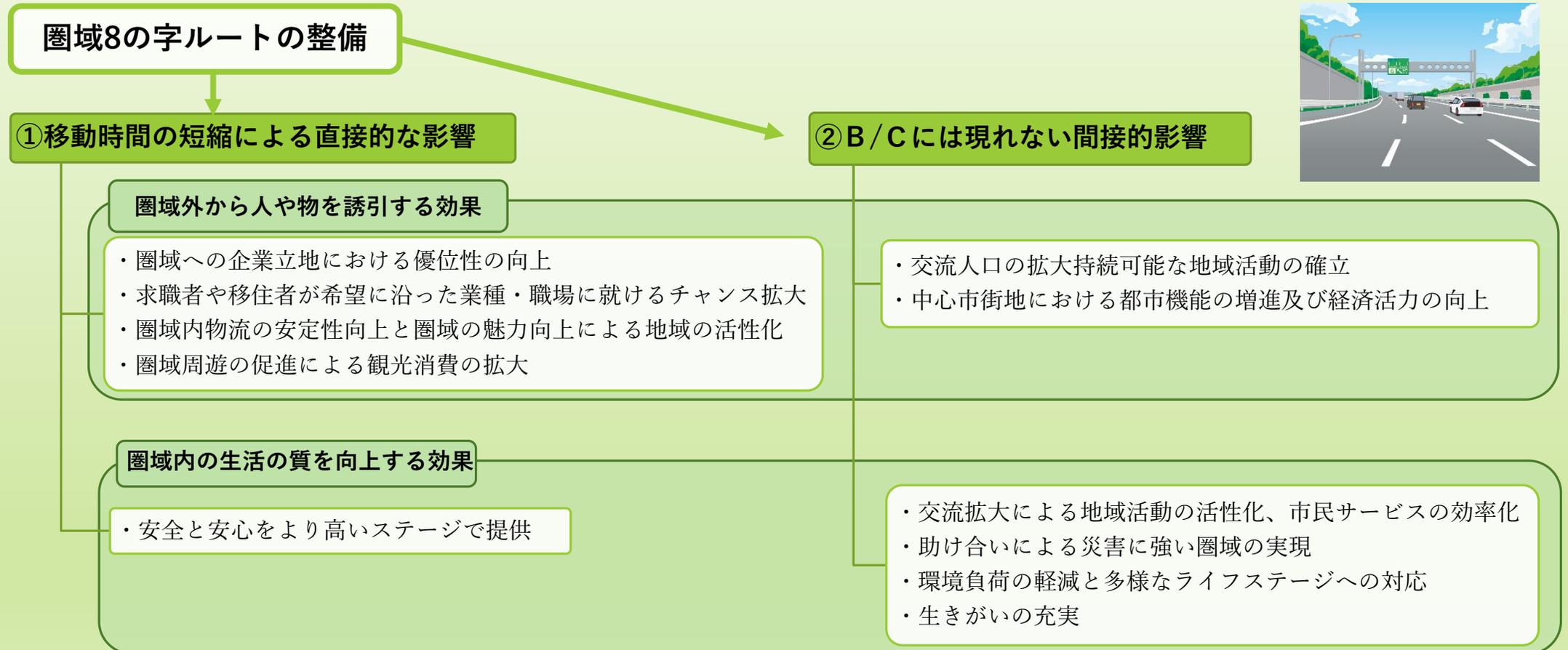
交通に起因した多くの課題等により
圏域の都市機能が十分に発揮されていない



様々なボトルネックを解決し圏域のポテンシャルを発揮するためには、圏域の一体的な発展を支える交通ネットワークを充実していくことが重要



4つの視点の整理について





4つの視点の整理について

直接、間接的な影響による変化



③圏域の新たなデザイン

圏域のポテンシャルが十分に発揮される、西日本有数の持続可能な拠点

新たな技術の導入等による相乗効果の検討



④カーボンニュートラル、デジタル技術の活用



電気自動車、自動車の自動走行、ワーケーション、二地域居住

整備効果を更に高める画期的な技術の影響

高規格道路ネットワークを活用した地方創生の実現
新たな生活圏、経済圏が誕生

圏域8の字ルート ⇒ 圏域の地方創生を力強く進める前提となる地域間ネットワークの基盤



目標とする社会像について

4つの視点



圏域8の字ルート整備を通じて目標としていく圏域の社会像を整理

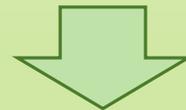


～ 縮まる時間 深まる交流 広がる未来 ～

- 時間距離の短縮で「ひと」と「もの」が自由に行き交う活力あふれる圏域
- 暮らしの安全性、安心感が向上する、命をつなぐ圏域
- 多様な人と出会い、つながり、様々な交流が体感できる圏域
- 多彩なライフスタイルを創出し、生きがいが充実する圏域
- 都市機能アップによる拠点性の向上と新たな連携の創出ができる圏域
- グリーン社会の実現に貢献する持続可能な圏域



目標達成に向けた様々な取組は、中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンに掲げた将来像の実現につながります。



水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から未来につなげる

～あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域～

道路整備で圏域の姿が変わる
～縮まる時間 深まる交流 広がる未来～



出雲縁結び空港
(東京、仙台、名古屋、大阪、
福岡、静岡、隠岐へ)

圏域8の字ルート整備

時間距離の短縮、深化する交流活動

中海・宍道湖・大山圏域

クルーズ船で世界へ

東アジアのゲートウェイ
境港、米子鬼太郎空港
(東京、ソウル、上海、香港へ)

広がるつながり

広がるつながり

広がるつながり

将来像の実現

- 時間距離の短縮で「ひと」と「もの」が自由に行き交う活力あふれる圏域
- 暮らしの安全性、安心感が向上する、命をつなぐ圏域
- 多様な人と出会い、つながり、様々な交流が体感できる圏域
- 多様なライフスタイルを創出し、生きがいが充実する圏域
- 都市機能アップによる拠点性の向上と新たな連携の創出ができる圏域
- グリーン社会の実現に貢献する持続可能な圏域

水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から未来につなげる
～あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域～



今後の広域連携による取組について

目標とする社会像の実現に向かうため、圏域全体で取組むチャレンジ

(1) 縮まる時間へのチャレンジ

具体的なイメージ

- 人々の生活が豊かさを実感できる
- 希望の就職、転職ができる
- ワークライフバランスが充実する
- 地産地消、食料自給が進む
- 観光地をじっくり巡れる
- 多くの観光客を目にするようになる
- 災害に強いまちになる



チャレンジ

- ①高規格道路整備前に可能なチャレンジ
 - 救急搬送、災害対応の連携強化による安全・安心の拡充
- ②高規格道路整備後に効果的なチャレンジ
 - 企業誘致の活性化と多様な仕事の創出
 - 周遊観光プランの造成と受入れ環境の充実





今後の広域連携による取組について

(2) 深まる交流へのチャレンジ

具体的なイメージ

- 様々な自然や文化を体験できる
- 様々な地域で交流が生まれる
- 観光客にとって「第二のふるさと」になる
- 圏域の色々な施設が自由に使える
- 大きなスポーツ大会やイベントが身近になる



チャレンジ

①高規格道路整備前に可能なチャレンジ

- 圏域住民を巻き込んだ、整備推進に向けた機運醸成
- 圏域内の情報共有による一体感の創出
- 圏域へのふるさと愛の醸成による次世代の人材育成

②高規格道路整備後に効果的なチャレンジ

- 情報インフラの共有化による行政サービスの効率化





今後の広域連携による取組について

(3) 広がる未来へのチャレンジ

具体的なイメージ

- 交流人口が拡大する
- 新たなビジネスが始まる
- 港湾・空港・駅に新たな賑わいが生まれる
- 柔軟な働き方が可能となる
- グリーン社会が実現する
- 東アジアのゲートウェイ機能が充実する



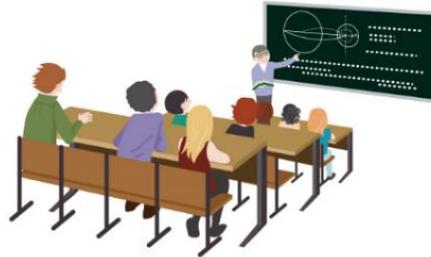
チャレンジ

①高規格道路整備前に可能なチャレンジ

- 地域資源の磨き上げによる圏域ポテンシャルの向上
- 地域交通の点検による新たな生活スタイルの検討

②高規格道路整備後に効果的なチャレンジ

- 若者の地元定着を促進する学びの場の創出
- 新たな生活様式に対応した移住定住の推進
- 港湾・空港を活用した国内外における交流促進





今後の広域連携による取組について

- 高規格道路のネットワークは産業、観光、環境、教育、福祉、医療、行政サービスなど様々な分野において、地方の発展の可能性を大きく高める
- 特に高規格道路は、単一の市町村に設置されるのではなく、複数の市町村に連なり整備され、高規格道路の整備効果をさらに高めていこうとしたときは、広域連携による取組がより有効
- 圏域には行政、経済界、高等教育機関、地域住民等、様々な主体の強固な連携により、高規格道路ネットワークをいかす土台がある
- 高規格道路の整備には長い年月を要するため、整備後の姿を地域住民と共有し、まちづくりを進めていくことにより、高規格道路整備による、時間短縮による物流の効率化等の直接的な効果、交流人口の拡大等の間接的な効果を十分にまちづくりに活用することができる





今後に向けて

- 東京一極集中の是正がなかなか進まないのは、インフラの集中が一つの原因
- アメリカやドイツは、首都に集中することなく、どこの地域であっても一定の公平な状況・条件の中で色々なビジネスができる国づくりを展開
- 国内において地方創生を成し遂げようとする、陸、海、空のインフラ整備が必要不可欠
- 少なくともこの圏域の中を、自由に行き来できるような環境を作り上げ、激しい地域間競争を勝ち抜いていき、我々の子供や孫の世代においても豊かに暮らせる社会を創りたい
- 圏域が一体となったまちづくりを推進するためには、地域の住民や企業等の関係者の意見を丁寧に聴き、地域の実情を十分把握しながら、関係機関が連携し検討をすること重要
- 圏域8の字ルートをいかしたまちづくりも圏域の皆様と共に進めていきたい



高規格道路ネットワークをいかした圏域づくり ~整備の影響と目標としていく社会像~

○構造
・ 中海・宍道湖南岸に人口、産業が集積
・ 限られた往来箇所交通が集中、慢性的な交通渋滞

○産業
・ 圏域の移出入収支額は赤字
・ 宍道湖北側の工業団地は大半が現在も分譲中境港
・ 境港は最寄りICまでの距離が長くアクセス性に課題

○観光
・ 観光客の多くは自動車移動
・ 観光地間の移動時間が長く、十分に周遊できない
・ 広域連携によるインバウンド対応が重要

○安心・安全
・ 円滑な移動を確保するためのインフラ整備が必要
・ 昼夜間問わず比較的多くの自動車一般道通過
・ 救急搬送の定時性の確保が課題

○人口
・ 人口減少率や高齢化率の上昇は全国平均を上回る。
・ 20代を中心とした若年層の圏域外流出
・ 圏域の活力低下を危惧

圏域8の字ルートの整備

①移動時間短縮等の直接的な影響
・ 圏域への企業立地における優位性の向上
・ 求職者や移住者が希望に沿った業種・職場に就けるチャンス拡大
・ 圏域内物流の安定性向上と圏域の魅力向上による地域の活性化
・ 圏域周遊の促進による観光消費の拡大
・ 安全と安心をより高いステージで提供

圏域外から人や物を誘引、圏域内の生活の質を向上

②B/Cに表れない、間接的な影響
・ 交流拡大による地域活動の活性化、市民サービスの効率化
・ 交流人口の増加による持続可能な地域活動の確立
・ 助け合いによる災害に強い圏域の実現
・ 中心市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上
・ 環境負荷の軽減と多様なライフステージへの対応
・ 生きがいの充実

変化する圏域の姿

③圏域の新たなデザイン
圏域のポテンシャルが十分に発揮される
西日本有数の持続可能な拠点



革新的な技術導入等による相乗効果

④SDGs、DXの推進等の踏まえた、カーボンニュートラル、デジタル技術の活用
高規格道路ネットワークを活用した地方創生の実現
新たな生活圏、経済圏が誕生

道路整備で圏域の姿が大きく変わり、まちづくりにも大きな影響

圏域8の字ルートは圏域の地方創生を力強く進める前提となる地域間ネットワーク

目標としていく社会像

- 時間距離の短縮で「ひと」と「もの」が自由に行き交う活力あふれる圏域
- 暮らしの安全性、安心感が向上する、命をつなぐ圏域
- 多様な人と出会い、つながり、様々な交流が体感できる圏域
- 多彩なライフスタイルを創出し、生きがいが充実する圏域
- 都市機能アップによる拠点性の向上と新たな連携の創出ができる圏域
- グリーン社会の実現に貢献する持続可能な圏域

~ 縮まる時間 深まる交流 広がる未来 ~

高規格道路ネットワークをいかした圏域づくり ~目標としていく社会像の具体的なイメージと実現に向けた3つのチャレンジ~

縮まる時間へのチャレンジ

- 企業誘致の活性化と多様な仕事の創出
- 周遊観光プランの造成と受入れ環境の充実
- 救急搬送、災害対応の連携強化による安全・安心の拡充

深まる交流へのチャレンジ

- 圏域住民を巻き込んだ、整備推進に向けた機運醸成
- 圏域内の情報共有による一体感の創出
- 圏域へのふるさと愛の醸成による次世代の人材育成
- 情報インフラの共有化による行政サービスの効率化

広がる未来へのチャレンジ

- 若者の地元定着を促進する学びの場の創出
- 新たな生活様式に対応した移住定住の推進
- 港湾・空港を活用した国内外における交流促進
- 地域資源の磨き上げによる圏域ポテンシャルの向上
- 地域交通の点検による新たな生活スタイルの検討

目標としていく社会像の具体的なイメージ

- 人々が豊かな生活を実感できる
- ワークライフバランスが充実する
- 観光地をじっくり巡れる
- 災害に強いまちになる
- 様々な地域で交流が生まれる
- 圏域の色々な施設が自由に使える
- 交流人口が拡大する
- 空港・港湾・駅に新たな賑わいが生まれる
- グリーン社会が実現する
- 希望の就職、転職ができる
- 地産地消、食料自給が進む
- 多くの観光客を目にするようになる
- 様々な自然や文化を体験できる
- 観光客にとって「第二のふるさと」になる
- 大きなスポーツ大会やイベントが身近になる
- 新たなビジネスが始まる
- 柔軟な働き方が可能となる
- 東アジアのゲートウェイ機能が充実する

高規格道路のネットワークは、
地方の発展の可能性を大きく向上

高規格道路は、複数の市町村に連
なり整備され、その整備効果をさ
らに高めていこうとしたときは、
広域連携による取組がより有効で
あり、圏域はその土台がある

高規格道路の整備は多くの場合
が十数年以上の年月が必要

整備後の社会像を圏域住民と共
有し、まちづくりを進めていく
ことで、高規格道路整備による
様々な効果を十分にまちづくりに
活用ができる

これまで紡いだ絆をもとに、新たなつながりを創出し

水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から未来につなげる
～あたたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域～

の実現をめざします